

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第1回

9月8日(水) 18時～20時
ZOOM 開催

第1回講座 『そもそも協働ってなんだろう？ 市長と充と喜江子の協働鼎談』

講師: 松本 哲治 浦添市長
前城 充 氏(与那原町政策調整監)



協働とは。。

喜びや夢、楽しみだけでなく、
苦しみもハードルも限界も共有
しながら何かを作り上げていく
プロセスが本当の協働ではないか。
本音のトークができないと協働が
できないと思う。

協働のメリット(行政側として)

行政の方から住民の皆さんに
データなどを使って何度も
情報を共有することで、住民が
→知らなかったことを知ることが
出来る
→興味を持つ
→自分の経験値から意見を出して
くれるようになる。
→本人が成長していると感じる。
住民同士が意見を言い合って、
建設的な話ができるようになって、
まとまっていく。
その過程で、職員も成長していく。

協働したいときの心構えは？

市役所と協働したいときに、
市役所職員にも**メリット**が
あることを示せると
協働しやすくなる。



欲しい公共は自分で作っちゃおう！
(自家製公共づくり)



本の紹介

通常であれば、
行政が行う公共を
自分で作り上げている方の
本を紹介していただきました！



困りごとを減らして
それぞれの地域で暮らし
続けられるための、住民協働の
地域づくりに関心があり、
そのヒントの芽生えがあったように思います。



自分たちの
まちの
ことを考え、
自分たちで決め、
そして
自分たちで
行動する

地域で力を合わせていくことの
素晴らしさ、その仲間づくりや
繋がりのために、お互いが
理解しあう大変さを乗り越えて
いくことが大事なんだと思いました。

この街全体のこと、
未来のこと、
子ども達のことを
考える地域愛が
大切である

「マイパブリックとグランドレベル 田中元子著 晶文社」

(前城充氏から紹介)

第1回 浦添市まちづくりアカデミー アンケート結果
第1回目のアンケートは、15名の方から提出がありました。

1. 年代をお聞かせください。

20代：2名 30代：2名 40代：4名 50代：3名
60代：2名 70代：2名

2. この講座を何で知りましたか。

ネット：3名 チラシ：3名 友人：3名 広報うらそえ：3名
その他：3名

3. 講座の受講を決めた理由は何ですか。（複数回答あり）

興味がある：9名 講師がよい：7名 面白そう：2名 協働を知りたい：2名
友人に誘われた：1名 その他：0名

4. 感想

・松本市長、前城充さんのお話が大変分かりやすく市民として又我が地域でできること
充さんが最後におっしゃられたまず動くことそしてあとで考える大変大事なことです
同感です。

・浦添市長 松本哲治さんの役所、職場の話が聞けていままでの市長、役所へのイメージが
変わりました。批判や石を投げている人たちへのイメージ（見かた）も変わりました。

・松本市長や前城さんの貴重なお話が聞け、自分でできることから取り組んでいこうと思
いました。

・市長さんはとても明るくて、話し方がわかりやすい。テーマはとても大切でした。

・良い！第1回目として、市と市民が協働していく課題が見えてきました。

・浦添市では初めての取り組みだと考えます。市民協働がスタートしたように思います。

・市長、職員、行政の立場のお二人のお話は、地域で力を合わせていくことの素晴らしさ、
その仲間作りや繋がりのために、お互いが理解しあう大変さを乗り越えていくことが大事な
んだと思いました。ありがとうございます。

・受講生に知人も多く「浦添をより良い街にしたい」と思う同志が多くいることを知り、
励みになった。市長の意見充さんの経験など市政の経験談ではあったが、ほかの組織でも共
通する考え方で、ためになった。

・今回講座に参加させていただき、市長のお話を聞かせていただく機会もあまりないので
大変貴重な時間となりました。私は、浦添市にまだ今年参加させていただいたばかりですが、
行政と市民との距離感がとても近く感じております。地域によって、さまざま異なることも
多くありますが、浦添市ならではの独自路線で、活性化を図ることに参加できればと考えて

おります。

- ・生活に困っている人の相談センターで働いています。困りごとを減らしてそれぞれの地域で暮らしつづけるための、住民協働の地域づくりに関心があり、そのヒントの萌芽があったように思います。

- ・素晴らしい企画でした。こうした会を継続することで、行政内部も市民意識も変わってゆくことを実感いたします。現在、石川県の「シェア金沢」という日本版 CCRC～生涯活躍のまちづくりを学び実践しておりますが、前城さんの「つっぱして後ろを振り返ると誰もついてこない」を経験し、PDCA を繰り返し前進しているところです。大変勇気をいただきました。「あきらめず成功するまで続ける！」を心に。

- ・「市役所であれ、市役所職員であれ、この町で共に働き、共に暮らす仲間である」「この街の全体のこと、未来のこと、子ども達のこと、などを考える地域愛が大切である」「自分たちのまちのことを考え、自分たちで決め、そして自分たちで行動する」

- ・・・協働のイメージとしての入門講座として、解りやすい講座でした。

○浦添市として SDGs への取り組み現況は興味がある点でしたが、直接、市長から現況説明及び今後の取り組みへの姿勢を聞ける機会に出会えたことに、この講座の魅力を感じました。

- ・住民参加に必要な要素、（情報共有・関係性の構築・対等性）の大事さを改めて確認できました。前城さん「島袋さんとの出会いをきっかけに勉強・行動をされてきたお話」に共感しました。私自身もこれまで、個人的な関心事を中心に生活をしてきましたが、子を持つことになったり、地域とのかかわりができることでみんなのこと（公共）に少しずつ関心が生まれてきています。今回、アカデミーを受講したのも、「協働」について言葉は聞いたことはありますが、「じゃ、何をすればいいの？」と気づきや学びを求めていることでした。本日の開校講座からも多くの気づきがありました。松本市長の、地域の「前城さん」行政の「前城さん」を見つけるというお話にも賛同します。

アカデミーに市職員も受講されていることはいいなと思います。最近お話を伺う機会のあった佐賀県庁「デザイン課」のお仕事が面白かったです。行政では多くの仕事を抱えていて、誰が何をやっているのかが職員同士でもわかりづらい、それを「可視化」する課だそうです。例えば、二つの課が同時にかかわる案件の間に入り、市民との協働をサポートしたり、外部の識者とコーディネートしたりしてスムーズに作業を進めていくお手伝いをするそうです。市民の側にも地域の色々な課題を「見える」ようにしたり、「これは誰々さんに繋げばいいな」みたいに動く人がいるといいかもしれませんね。市民性教育（Citizenship Education）は初めてきく言葉でした。簡単に検索結果を見ただけですが、そういう教育はこれまで受けてきていないように思います。アカデミーを通して様々なことを学んでいけたらと思います。

- ・市民と協働して総合計画？を作ったということですが、実際ということなのか私は勉強不足でよくわかりませんでした。まだまだ勉強不足でわからないことばかりでした。また次回よろしくお願いします。

- ・市長、講師の前城さんの苦労話も聞けてよかったです。今後も、いろいろな分野で取り組まれている講師の登場を楽しみにしています。